

「湯治と健康食」 ツーリズム創造

四万でキックオフ会議

県観光物産国際協会(市川捷次理事長)と四万温泉協会(関良則会長)が健康計測機器メーカーのタニタ(東京)と連携して取り組む、温泉と健康食を核とした旅行「ヘルスツーリズム」の事業モデルづくりに向けたキックオフ会議が8日、中之条町の四万たむらで開かれた。

関係者約40人が集まり、地域資源を生かして楽しみながら健康になる湯治ツーリズムの創造へ決意を新たにしました。

市川理事長は、「それぞれが持つノウハウを生かし、地域の活性化につなげたい。四万地域の新たな魅力になることを願いたい」とあいさつした。関会長は「四万温泉は、国民保養温泉の第1号に指定された。健康発信の滞在型温泉地となるきっかけにしたい」と意気込んだ。

タニタの担当者は「はかる」を通して世界の人々の健康づくりに貢献する企業理念を紹介し、地元食材を生かして「タニタ食堂」のメニューを提供したい考えを示した。事業は「プチ湯治とヘルステア 四万せんか」と題して取り組む。今後は五つのグループに分かれ、具体的な取り組みを協議した上で、年内にも試験的なツアーを実施する方針。



楽しみながら健康になる旅行を目指して開かれた会議